令和元年度下半期

財政状況のあらまし

最終予算額 696億8,898万円

市では、皆さんから納めていただいた市税をはじめ、地方譲与税や国・都からの補助金および交付金、また、市債などの財源がどのように使われているか、市民の皆さんにその内容をお知らせするとともに、市政運営に一層のご理解とご協力をいただくため、毎年２回（上半期、下半期）定期的に財政状況を公表しています。

今回は、令和元年度下半期（令和元年10月１日～２年３月31日）の財政状況についてお知らせします。

問財政課財政係（☎042－387－9802）

未来をひらく小金井をめざして

令和元年度予算については、人口減少や少子高齢化等の地方財政の構造的課題に対処し、限られた行政経営資源を有効活用し市民満足度の向上を図っていくため、市民目線の改革である「行財政改革プラン2020」と次世代に責任を果たす「公共施設マネジメント」を実行し、「第4次小金井市基本構想」に掲げる将来像の実現に向け着実に取り組む予算とし、市民満足度の一層の向上に取り組んできました。

しかしながら、国内景気の回復基調や担当部局の努力により市税収入が増となった一方で、地方消費税交付金は清算基準の見直し等の影響により減収となり、依然として厳しい財政運営となりました。

今後においても財政規律を緩めることなく、多様化・高度化する市民ニーズに的確に応えるため、より一層行財政改革を推進していきます。

なお、令和元年度の最終予算額は、一般会計、特別会計を合わせて696億8千898万円となり、前年同期と比べて、0・7%の減となりました。

一般会計

一般会計は、市税を主な財源とし、学校施設の改善や改修、道路の整備、緑地・公園用地の取得、集会施設などの建設や改修、教育や福祉、ごみ処理など市が行う事業の大部分を賄う会計です。

この会計の令和元年度下半期の予算現額は、466億5千799万1千円で前年同期と比較すると1・1%の減となりました。その執行状況は、歳入では、収入率91・3%、歳出では、執行率81・5%です。（図1）

下半期の主な建設事業としては、図書館本館外壁等改修工事、栗山公園多目的広場改修工事、はけの森美術館茶室「花侵庵」修復工事などを行いました。

特別会計

市には、特定の事業を行うため、一般会計とは別に、国民健康保険、下水道事業、介護保険、後期高齢者医療の4つの特別会計があります。

これらの特別会計の予算現額を前年同期と比較すると、国民健康保険が3・9%の減となった一方、下水道事業が12・2%、後期高齢者医療が3・3%、介護保険が2・7%それぞれ増加しました。（左下表）

市債

公共施設の建設などを積極的に進めていくうえで必要な財源として、国や都、金融機関などから長期にわたって借り受ける財源を市債といいます。

市債の現債高は、215億8千273万2千円となっています。これを目的別に見ると33・6%をまちづくりのための都市計画事業債が占め、次いで28・3%が臨時財政対策債、9・2%が市民交流センター取得の文化センター等事業債、8・0%が道路等の整備の一般土木債、5・4%が下水道の建設等の下水道債、3・2%が小中学校等義務教育施設の建設の義務教育事業債、2・3%が減税補てん債となっています。市民一人当たりでみると、17万6千125円の借金があることになり、これを前年同期と比較すると、4・2%の減となります。（図2）

市有財産

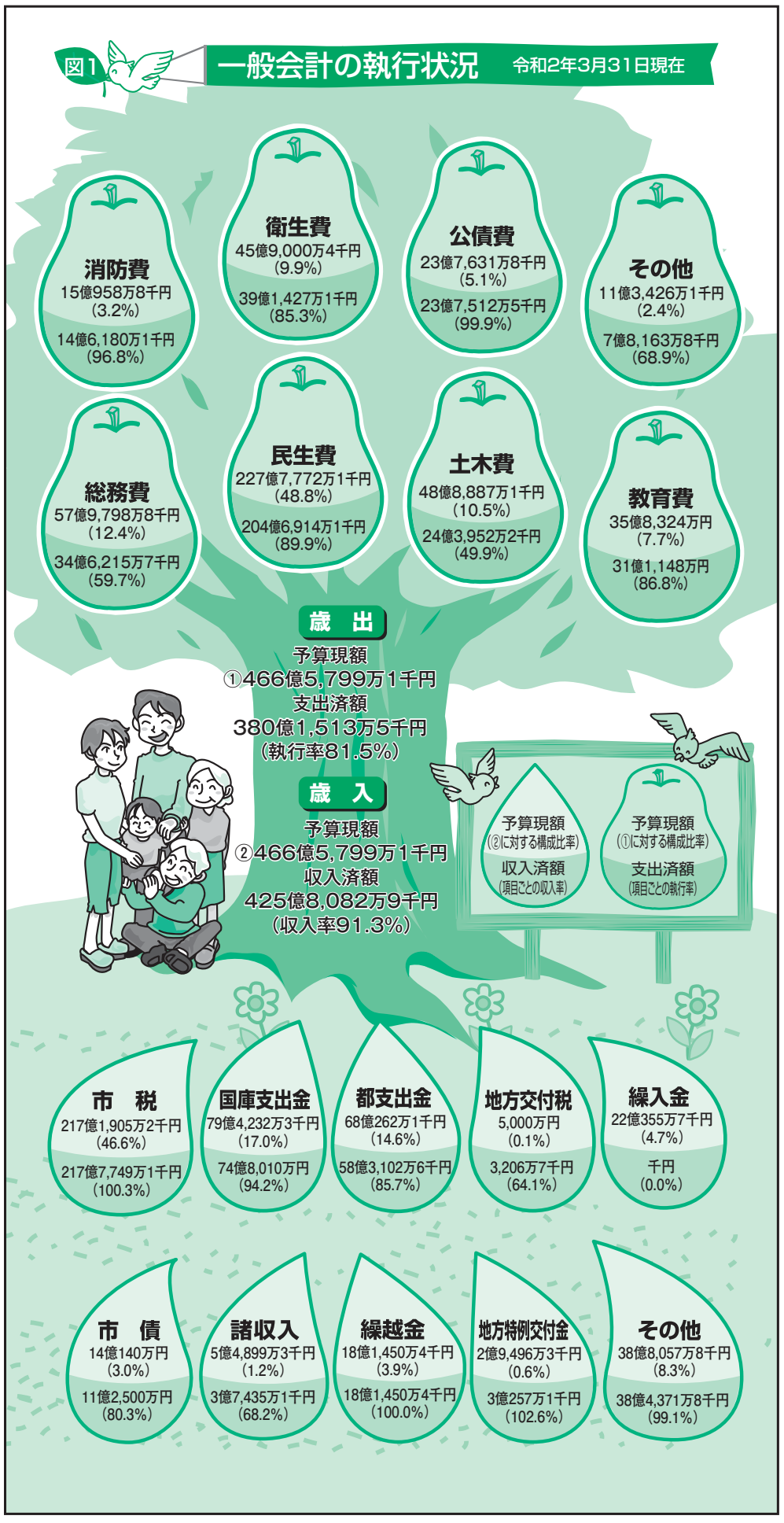
市が保有している財産には、庁舎や学校などの土地、建物、そのほか、物品や基金など多くの財産があります。（図3）

市有財産の現在高は、929億1千473万円となり、前年同期と比較すると1・0%の増となりました。

一時借入金

一時借入金は、歳出予算で定められた経費を支出するとき、不足する現金を補てんするため、短期的に借り入れる現金をいい、出納閉鎖日（5月31日）までに返済しなければならないことになっています。

令和元年度の下半期は、一時借入金はありません。



特別会計の執行状況　（令和２年３月31日現在）

区分	予算現額	収入済額	収入率	支出済額	執行率
国民健康保険	103億1,757万1千円	98億4,639万8千円	95.4%	96億9,856万5千円	94.0%
下水道事業	16億5,373万9千円	16億5,342万1千円	100.0%	12億1,601万8千円	73.5%
介護保険	83億8,528万2千円	78億9,654万円	94.2%	75億2,876万円	89.8%
後期高齢者医療	26億7,439万7千円	26億6,203万2千円	99.5%	26億2,490万円	98.1%